

# 経営比較分析表（令和6年度決算）

神奈川県 鎌倉市

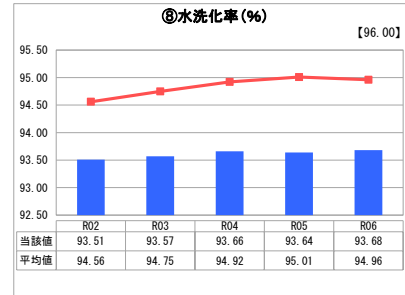
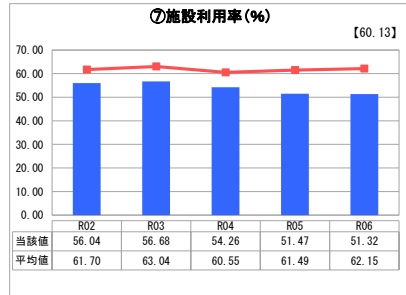
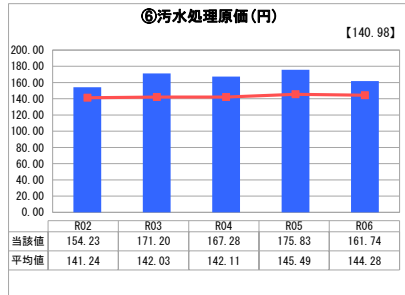
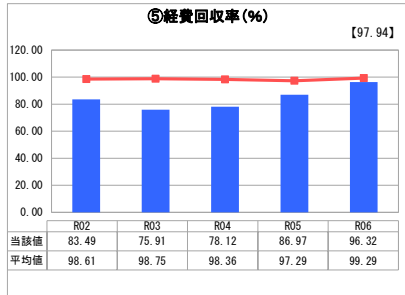
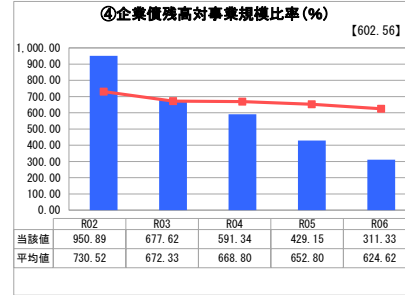
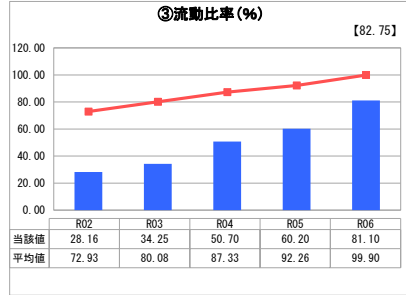
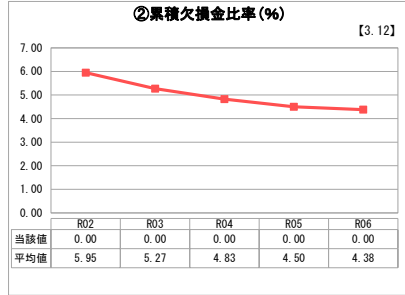
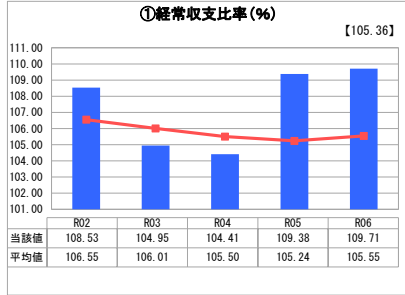
業務名	業種名	事業名	類似団区分	管理者の情報
法適用	下水道事業	公共下水道	Ac1	非設置
資金不足比率(%)	自己資本構成比率(%)	普及率(%)	有収率(%)	1か月20m <sup>3</sup> 当たり家庭料金(円)
-	65.59	97.76	90.30	2,754

人口(人)	面積(km <sup>2</sup> )	人口密度(人/km <sup>2</sup> )
174,535	39.66	4,400.78
処理区域内人口(人)	処理区域面積(km <sup>2</sup> )	処理区域内人口密度(人/km <sup>2</sup> )
170,486	24.20	7,044.88

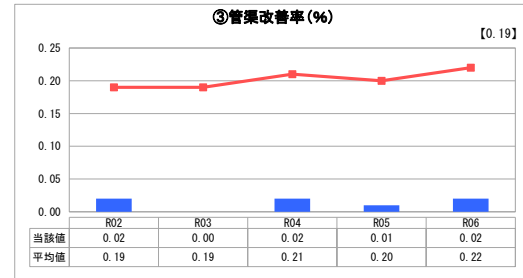
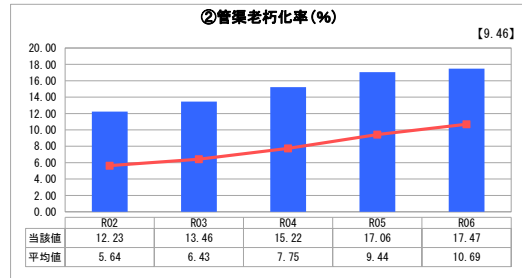
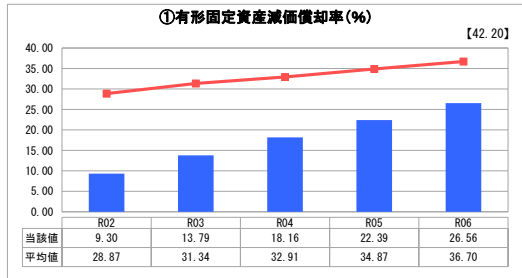
**グラフ凡例**

- 当該団体値(当該値)
- 類似団体平均値(平均値)
- [ ] 令和6年度全国平均

## 1. 経営の健全性・効率性



## 2. 老朽化の状況



## 分析欄

### 1. 経営の健全性・効率性について

経常収支比率及び経費回収率は、令和4年度以降上昇しています。これは下水道使用料収入の増加に伴うものです。  
 流動比率は、類似団体平均値と比べて低い状態が続いていますが、企業債の償還が進んだことから改善している傾向です。また、企業債残高対事業規模比率についても年々低下していることから、企業債を順調に償還していることが分かります。なお、本市では今後、実施する下水道設備の更新等の財源として、企業債の活用を計画していることから、留意していく必要があります。  
 本市は地形的制約などにより、市内に二つの下水道終末処理場を有していることなどから、下水道施設の維持管理費や減価償却費がかさみ、汚水処理費は高くなっています。また、節水型機器の普及や生活様式の変化により、有収水量も年々減少傾向にあることなどから、類似団体平均値と比べて汚水処理原価が高くなっています。  
 本市の下水道事業における健全性・効率性の向上には、長期的な視野で、これからの時代に合わせた計画が必要です。

### 2. 老朽化の状況について

有形固定資産減価償却率は、類似団体平均値よりも低くなっていますが、本市の汚水管渠は、昭和33年度から工事着手していることから、管渠老朽化率は類似団体平均値よりも高く、上昇傾向にあります。  
 本市には汚水管渠約490km、雨水管渠約239kmの他、下水道終末処理場2施設、汚水中継ポンプ場6施設があり、水質汚濁や浸水リスクを下げる大きな役割があるため、点検・調査を適切に行い、必要に応じて更新等を実施していく必要があります。

## 全体総括

本市では、今後、物価等の高騰や計画の見直しにより、下水道施設の維持管理や改築・更新に係る費用は増大するとともに、企業債の借入額も増大することが見込まれます。  
 老朽化が進んでいる下水道施設については、鎌倉市下水道ストックマネジメント計画等に基づき、予防保全型の管理への移行を進め、更新費用の圧縮と平準化を目指します。  
 また、令和8年(2026年)3月に鎌倉市公共下水道経営戦略の改定を予定しており、着実に事業を実施していくことで、下水道事業運営のより一層の効率化を図っていきます。

※ 「経常収支比率」、「累積欠損金比率」、「流動比率」、「有形固定資産減価償却率」及び「管渠老朽化率」については、法非適用企業では算出できないため、法適用企業のみを類似団体平均値及び全国平均を算出しています。